

「行動する保守」の論理（9）

——国家革新の一部として排外主義運動に参加するθ氏の場合——

樋口直人

徳島大学総合科学部

Logics of the ‘Aggressive Conservative’ Activists (9)

The Case of Mr. θ

HIGUCHI Naoto

University of Tokushima

1. 経緯

本稿は、2012年4月2日に民族派の活動家であり、排外主義運動にも加わっているθ氏（50代男性）に対して実施した聞き取りを、意味が伝わりやすいように適宜並べ替えて再構成したものである¹。彼は、元々は新右翼組織として著名な一水会で活動し、現在は自営業のかたわら個人でさまざまな活動をしている。以下では、θ氏の言葉をそのまま用いて活動家としての経歴をたどっていきたい。

2. 政治に対する関心と右翼としての立場

自然とですね、家に右翼系の機関誌とか何かが、いろいろと送られてきていたんで、そういうのを見ているうちに自然と、そういう風な思想に傾倒するようになったといえますかね。（父親は）活動家じゃ

なかったですね。ですけど、そんな方面に知己が——いろいろ知り合いが多かったものですから。子どもの頃は、5.15（事件）の三上卓って、三上卓さんの家にはよく親に連れられて遊びに行ったりとかそういうことがありましたんでね。まあそういうのは自然とですかね。

要は 2.26 事件で頓挫した昭和維新運動の復興ですね、日本の国家革新を担うための運動やってるわけですから。目標はもう、政権の転覆ですよ、それは。

やっぱり日本の伝統を、日本の国体護持という風な一本の幹があって、それに対して枝葉がついて、その中で領土問題があって、竹島があって尖閣諸島の問題があったりとか、対米問題があったりとか、いろいろ靖国神社の問題、外交問題、領土問題ある中の1つとして外国人問題。外国人問題の中にさらに枝があって、外国人参政権の問題とか、いろいろあるわけですから。One of them であると考えてますね。

新右翼系の人って、むしろ鈴木邦男さんなんかは外国人に対して非常に融和的でもって、「ダメだよそんなに外国人を差別しちゃ」みたいな感じでやっているし。在日外国人、朝鮮人のジャーナリストや文化人知識人といわれる人からは、鈴木さんは非常に話しやすいし、ああいういわゆるネット系の右翼の人たちも批判してくれてるという意味で重宝されているくらいであって。他にも結構、まあ外国人に非常に寛大な発言をするこ

¹ 徳島市南常三島町 1-1 徳島大学総合科学部 (higuchinaoto@yahoo.co.jp)。これまでのまとめとして、樋口（2012a, 2012b, 2012c, 2012d, 2012e, 2012f, 2012g, 2012h, 2012i, 2013a, 2013b）を参照。これらはまとめて、樋口（2014）の資料編として位置づけられる。本稿も含む一連のまとめでは、聞き取りの中で発せられた差別的な言葉や見方をそのまま掲載している。資料としての意味を損ねないゆえのことであるが、それが苦渋の選択であることはご理解いただきたい。

とでもって、自分達はまともな右翼なんだということをまあ見せたがっている人もいますよ、それは。

1 つには野村秋介さんなんかは、獄中 18 年とあって、まあ河野一郎邸焼き討ちで 12 年で、経団連占拠で 6 年で 18 年。また別に、戦後闇市の時代にあったわけですね。それは政治的なものじゃないから獄中 18 年に数えてないんだけど、近所でもって悪どいヤクザが朝鮮人のおばちゃんをいたぶって非常に差別して意地悪したんで、これはいかんと義侠心からこれをやっつけてやったというのがあって。たとえば外国人だろうが、当時戦後の日本でもって横暴振った朝鮮人であったって、個人は個人なんだからと。何も朝鮮人のおばちゃんを懲らしめていた人間に対して、日本人だからそれを見て見ぬふりなんかそんなけしからんとという義侠心から、蛮勇をふるったわけですけども。

そういうこと知ってるから、割と新右翼の人たちというのはそういう風にならって、今世間の風潮でネット系の右翼とか保守の人たちが殊更外国人排斥と言うけど、それに対して自分が義侠心的なものから日本精神をもってそういう人たちを懲らしめてやるんだという風な論調を張るといのは、ありうるのかなとは思いますが。ただそれは根本的な道筋、その運動そのものを見ているわけじゃないわけであって、ちょっとパフォーマンス的かなという感じがしますけどね、私から見ると。ただ私は別に保守の人たち、ネット系の右翼、在特会とかそういう人たちとも知り合いがいるわけだし、一緒に運動で接点があるわけだし、右翼的な新右翼の人も知っているわけだし。私は別に中間をとるわけじゃないんですけど、間をとるような立場なんだけど、中間をとるのではなく是々非々であると。是の部分には是であるし、非の部分には非であるし。そういう観点から冷静にすべての事象に対してこの問題は、あの問題はときちんとした検証をしていく必要がある。感情的になって外国人は出て行け、感情的になってそんな日本人らしくない、大和民族としてけしからんと弾圧するとかね、そういう問題でもなかつと思うんですけどね。

(義侠心が新右翼の行動規範に) なっているがゆえに冷静に物事をみていないというかな。1 つには三島由紀夫の言葉でもって、右翼とは理論じゃない

と。右翼とは心情の問題だという風に言われたことがあって、ある意味じゃあそういう言葉にちょっとまあ寄りかかりすぎかなと。甘えてるかな。その言葉を持ち出せばすべてが事足りてしまうと思ってるかもしれないけれども、それは 1 つ確かに心情の問題だと。日本人的な大和魂、そういうものを内々に持った者が燃え滾るものがあるって、今の運動があるんだというのは確かなんですけど。まあ冷静に、現在状況も違うんで、1 つ 1 つ物事事象を検証していくことが求められていると思うんですね。だから外国人参政権、反対は反対なんだけれども、ああいうような彼ら(在特会)のようなやり方がいいのかどうか、手段方法の問題が出てくると思うんですね。

新右翼としてそういう風な政策を出しているわけでもないし、割とそういう流れが強いのかなと思うだけであって。すべてがそういうものでもないし。だから新右翼的な中ではそういうのがあまり議論されてないですね。反対をする立場で一所懸命議論することはあっても、賛成する立場というか、外国人参政権反対に対して批判するという立場では、これといった明確な基準的なものはないわけなんで。特にそれだけを取り上げられているわけではない。まあ中には去年かシンポジウムかちょっとあったときに、私のことを批判したくて批判したくてしょうがない人たちがいて、なんで在特会とか主権回復とかああいう人間とつるんだと。けしからんと。何とか私を説き伏せたいみたいな人たちはいたようですけども。まあ、直接本人に言えばいいんだけどさ、付き合っているからけしからんとさんざんいうみたいですけどね。是々非々の問題がありますんで、議論するなら論戦いましょうというのが私の立場ですけどもね。

(「外国人問題」の重要性は) そんなに大きくないですよ。全体では日本の国家革新、平成の維新運動をやる中において、領土問題があつたり憲法問題があつたり靖国のことであるとか、いろんな中において外国人問題としてやっていますんで。まあ参政権の問題。いくつか柱が 10 本もあるかないかですけど、その中の 1 つという。10 分の 1 か 5 分の 1 か、そのくらいの比重じゃないかと思えますけど。だから外国人問題というのは、それほど意識はしてないし、するテーマでもないですよ。他にやることも、訴えるべきこともあるわけであって。

3. 外国人との接点

多かれ少なかれ近所に（外国人が）1人や2人は住んでいたことはあるでしょうけど、それが後々の人格形成とか思想形成に影響を及ぼしたとかいうことじゃないですけど。

（外国人と接点を持ったのは）海外に居住していた時であるとか、そういう関連の仕事やっている時ですよ。まあいろいろと——関心というほどではないですけど、興味というか見るべきところは見えてありましたんでね。最初行ったのはイラクですね。イラク、バグダッドの方に駐在していたんです。ゼネコンの事務ですね。そして行ったものですから、労務管理とか外国人に対する給料の支払い、計算をやったわけなんですけどね。

要は日本だと外国人差別しちゃいけない、労働賃金は同じであると。同じ仕事やっているんだから、日本人と同じ給料を払わないといかんというのは当たり前なんですけど、イラクにいた場合やっぱり第三国人のワーカー連れてくるわけですよ。三国人というのは、イラクと日本が第一、二国でそれに対しての第三国、バングラデシュとかスリランカとかフィリピンとか来ると。そうすると同じ職種やっても、例えばフィリピン人は10万円だよと、スリランカ人は5万円だよと、バングラデシュ人は2万円の給料だよ。それはその国々の貨幣価値に換算して、それを同じ労働に対しても金額が違ふと。それは当然のことなんであって、自分達の国に入って同じ——日本人と同じ30万円の給料をやって、バングラデシュに行って30万円使っていたらどうなるかと。向こうの経済状況がおかしくなってしまうんですね。ごく一部の外国に行って日本企業で働いた経験のある人間だけが、平均賃金2万円の国でもって30万円持って使ったら、やりたい放題、地上げでも何でもできてしまうということがあるわけで。その点あまり日本が外国人に対して、いい意味では寛容なんですけれども、ちょっと給料体系がとち狂ってるなと。それは西尾幹二さんの『労働鎖国のすすめ』でも書いてあったんだけど、あのバブルの頃、日本経済がいい頃に日本に来たバングラデシュ人が日本で稼いだ金でもって、ダッカに帰ってダッカのメインストリームざーっと地上げしたと。日本から帰った金だったらものすごい広大な土地買えるわけで、地上げ、土地を買って畑を耕して耕地を広げて、その

金で持って農奴を——奴隷的な給料でもって現地からの人間をさらに雇い入れて搾取しているという状況。これはその国の発展のためにもなってないだろうと言っていましたけど、正にその通りなんでありましてね。その点で見ると、日本人があまりにも外国人に対して無知であるというようなことは、非常に感じ入ったわけですけどね。

そういうことが後々に、日本に帰って来てから、民族運動を実践するにおいて過去の状況をみていくと、日本の言っていることはおかしいと。外国の状況はこうだという比較対象としてみることができますよね。比較するには、外国と日本じゃ外国人に対する扱いが違いますからね。

接点を持ったから関心と言うわけじゃないですけどもね、それはこういう仕事柄、いろいろな国々に行ったりとか来たりとか、人々と会ったりしますけどね。それは今、私のような立場に限らず、誰だって日本にいれば外国人と——都市部に住んでいれば普通に誰でも付き合いある。特に中古車業界というのはその辺の町の修理工場のオヤジだって、みんなパキスタン人やナイジェリア人も付き合いがなんだかんだとあるわけですから。外国人に対してはその中で意識を持つか持たないかというだけの話でしょうが。

私に限らず社会に住んで社会に接点持っていれば、外国人の問題これはおかしいぞと。中古車業界でいえば、オークションのほとんど外国人だらけになっていて、外国人が高値でどんどん買っちゃうものだから我々が車買えなくなっちゃうとか。私のような政治活動に携わっている者に限らず、町の中古車のオヤジだって持っているのであって。ガイジンにやられっぱなしだよなという意識は持っているのであって。だからこの問題に取り組んでいるとか、外国人参政権に反対するという意識は持たないし行動もしないでしょうけど、誰も多かれ少なかれそういう問題を直視する場面には行き当たっていると思うのですね。

彼らは制度上の問題、合法的に入ってきて車を買って付けるためにやっているわけであって、彼らは参政権をよこせとは言っていないだろうし。ただ、目に余るものはありますよ。ただ目に余るといったって別にあの、オークションにいつて車を自分達で高値で落札しているから相場が上がっちゃったということはあったり。ただ、それは制度上法律上問題ないんだから、「参ったな、こんなにいっぱい来て困るよ」という思いは皆さ

んあるんでしょうけど、それをどうこうは言えないですよ。

それに対しても右翼の反発はあったんで、数年前から草加のほうのオークション会場でもって右翼団体の街宣車がそれに対して言ったところ、向こうがパキスタン人が応戦してきて、石投げるは棒で突っついて街宣車を壊したと。彼らは——そういう右翼団体の人たちは、違法駐車していると。オークション会場前でずらっと並べて。ただ交通が頻繁に通るところじゃないから、えらい交通の妨げになっているわけじゃないけど、これは路上駐車だからいかんと言ったわけです。それはある意味では、因縁ふっかけと捉えられないこともないんだけど。それを言った根底というのは、外国人、パキスタン人があまりやりたい放題やっているとすれば、鬱憤晴らし的な要素もあったろうと思うんですけど。そういう形では、まあパキスタン人、中古車業者に対して攻撃というかは、私の知る限りではありましたね。私がやったわけではないですけど。パキスタン人が日本にやってきて、やりたい放題というのは——商売上の問題というのは、それを上回るだけのこっちは商売をやればいだけなんであって。

私、そういう風に意識して外国人問題を意識したのは、やはり20年くらい前ですかね。ああそうだと、読んだのは西尾幹二氏の『労働鎖国のすすめ』という本を見てね、あれにかなり具体的に書いてありましてね。そういうところでもって外国人が日本に沢山いつくことに対して、永住することによってどういう風な弊害があるかということを知り明かしていた本がありましたんでね。なかなか詳しく具体的な例も書いて。要は西尾さん自体、ヨーロッパ、ドイツか何かの国にいた人ですから、ドイツかフランスの例を挙げて言っていましたけど、まあ、向こうの例とは日本と若干状況は異なりますけど、そういう状況でもってヨーロッパの国々ではすでに外国人をシャットアウトしているにもかかわらず、日本人はこれから入れようとしているのは、どうかしているという論調で書いてはいたけどもね。共感することが多々ありますよね。

(ただし)西尾さんの本を読んだから、私が変わったとか目覚めたというもんじゃないんで。私はヨーロッパの状況と今の日本は全然違いますんでね。ただ厳密に見ていきますと、労働者の賃金の問題で

あるとか、そういうことを日本人が従来の日本的な奥ゆかしさというか、寛容な精神からあまりにも外国人を自分達と対等に扱っているようだけど、それは決して彼らの国の発展のためにならないということもあるわけだし。日本人がそこまで寛容になったら、日本人の常識は世界の常識じゃないと。

ヨーロッパではきちんとした階級社会があるのであって、その中でもって外国人受け入れにしても、まあフランスあたりだったらちょっと上のほうの下級官吏は何人、もっと下の門番は何人、下のごみ収集は何人、とかそういう階層ができていくわけだし、それを彼らは当たり前として受け入れてるけど、日本人は非常に違和感あってできないというか。建設現場でも外国人労働者に対して、日本人で行ったエンジニアが何かやる時、ちょっと建設関係でいうと難しい仕事で溶接はこうやってやるんだよとやってやると、ダメだと。やったらもう外国人はそれを見たら馬鹿にしちゃって、なんだお前できるのならお前やれよ、俺たちやらないんだよとなるんであって。技術者だったら、決して現場に出て彼らに対してものわかりよく日本人に教えるように教えちゃだめなんだよ、というような階級社会が外国人と接する時には当たり前なんだよと言われてきましたけど。その点で日本人は鈍感というかね、結局自分達が外国人にこうやってやればいい、と親切心でやったことが仇になっているというのがあるわけ。それをもう少し日本人が警戒心というかな、もって世界の標準に近づいたほうがいいかなという気はしますよね。

在日の問題というのは、特にそんなに強い問題意識はないですよ。ただ最近の流れとして参政権をよこせよと、被参政権も認めるべきだとかそういう議論が出てきちゃうと、普通に居住している外国人の枠を飛び越えて、外国人に我々の持つ主権の一部を委ねるみたいなね、風潮になってくると、これは由々しき問題かなと思うわけですよ。

彼らが在日特権という——あるのかどうかまあ不確かなという意見もありますけども——ずっと長いこと日本に特別永住許可があるのは普通の外国人と違うという、ある意味では特殊な外国人というんですかね。その中で1つ言われるのは犯罪犯しても実名で報道されない、日本人名にならなると金何某とか言われて、「こと金何某」もいわれないで済んじゃうというのがけしからんというわけだけ。それはまあ、外国人名

を報道することが意味があるかわかりませんが、そういう意味で自分達の出自というものを知らせずに済んじゃうよというのは、確かにいびつといえはいびつ。これはまあアメリカ人とかヨーロッパ人、欧米人だったらそれはありえない話なんですけどもね。で、逆に正しいこといいことやると、有名なことになると、何とか文学賞とると、外国人でもって芥川賞とった初めての、という顕著にもってはやされているというのは、確かに正常な状態じゃないと思いますね。ただそれに対して、感情的になって糾弾するのはどうかと思いますけどもね。

（在日コリアンも）パチンコ屋やって非常に金がある人もいれば、やくざにしかなれない人もいる、いろいろな層があると思うんですね。朝鮮人というのは、戦後の混乱期において結構日本人の土地を不法占拠したりなんかして、結構財を成したということが多いわけ。そういう意味では結構努力した人とか、狡猾に生きた人というのは結構金を持っていると思う。前あの、野坂昭如氏が言っていたのかな、朝まで生テレビに出た時に、あれは若者特集か何かで会場に行ったんですけど、要は在日朝鮮人の人たちは非常に戦後苦勞したんだよ。でもって、普通日本人ができないような商売やって、キャバレーとかタクシーとかパチンコとか焼肉屋とか、現金商売でその日すぐに金が入る商売をやったんだ。という風な、彼らに対して非常に同情的な発言をしておったんですけどもね。

逆に言えばそれは、そういうのはうまいところ、ところに食いついたとか、すべて現金で金が入る商売をやっていると。支払いの後でもいいわけです。ローンでも月賦でも払えば焼肉なんて月末払えばいいわけなんですけど、タクシーでもキャバレーでも焼肉でもパチンコでも、その日に特に現金で入るようないい商売だと。そのため普通に日本人がまともに働いていたって、お客さんからお金をもらうのは月末払い。そういう非常にきつい日本の商習慣に則ってやっているわけで、彼らはうまいところに食い込んだわけだから、彼らに同情するというのも、それは逆じゃないかということでもって、私は感じたわけなんですけどもね、本質をみていけば。

そういう意味で今言われたのは、彼らが決して下層階級じゃなくて、上流階級、裕福だというのは確かにその通りであると思いますから、そこまで下手

な同情は必要ない。ただ気分的にさっき申し上げたように、日本が嫌なら帰れというとしても、帰るところもないんですよというのは、気の毒といえば気の毒かも知れないですけども。ただ外国で暮らすということは、親たちが日本人と一緒に住んでいると外国人なんだからといって、自分の国の言語を教えるべきだと思うんですね。カルデロンのりこさんの場合、中学生になって今からフィリピンに帰ったって言葉もわからないというけれども、それは親として子ども達に対して、我々は不法滞在で来ているからいつ追い出されるかわからないから、ちゃんと日本語だけでなくタガログ語を教えるということをしてこなかったのが怠慢なわけで。まあ、日本人でも外国でもって海外駐在しているなかで子どもが生まれれば、英語しかできない、日本に帰ってきて苦勞して日本語覚えている海外帰国子女のエリートと呼ばれる人たちはいっぱいいますからね。言語の問題は気の毒でしょうが、外国人として親が子どもに対して意識させるべきだったんじゃないかな。

（カルデロンの時に行動は）いや、全然やってないですよ。まったくやってないですけど。だからカルデロンの問題は別に言わないけど、背景にあるのは極左、藤に左翼のセクトが彼らを広告塔として使って、ネット右翼攻撃のための1つのツールとしてやってるというのがありありでしたんでね。まあ後で動画で見ましたよ。彼らの——保守系の人たちがやるデモ行進に対する妨害活動というのは、あそこまで警察が許してるのはおかしいと思うほど、あからさまに左翼が突っ込んで来てましたよね。ただそれは別に、カルデロンのりこが別にそれを頼んだわけでもなんでもないんですね。彼らはうまく利用しているだけの話でありましてね。

その点は成田闘争と似ているので、成田の農民達は自分達の土地を奪われたくない。要するに共産主義は別に支持しているわけでもなんでもないけど、それにセクトがどんどん入って、彼らと人間的な連帯感を持ってがっちりとして。ああ、保守の人が全然見向きもしなかったけど、こういう人たちが来てくれたんだ、彼らは藁にもすがる思いで左翼の人に飯食わせたり寝泊りさせながら、運動を一緒にやってたということなのかな、似たような感じに思いますけど。

4. 東アジアに関わる運動

台湾、中国も含めてとなると、いつということはないですね。それはまあ、台湾正名運動ですかね。台湾の名前使えという。この民族運動やっている中で、どこかでそういうのと接点はできてきますんで。接点というか、運動を進める上において何らかの関わりはできてくるわけなんで。そういうのは主張としてはすると思いますよ、あらゆる場面で。台湾正名運動は、いわば人づてですよね。知り合いからこういう運動やるからどう？と言われて、じゃあ一緒にやりましょうということでもって。集会とかデモとか繰り広げたりとか開催したりとかやっていますけどもね。何か特別にきっかけになったとか、そういうのは特に意識してないですね。テーマが自分達の意見と一致すれば、みんな来てくれるわけですから。

慰安婦問題、これは随分前から言われてましたんでね、これは。まあ古くは日韓基本条約締結でもって、賠償金、有償無償5億ドルかなんか金払っているのに、また言っているのはおかしいじゃないかという論調、ずっと昔からあったわけがありますからね。ごく自然な流れとしてみんな行っていたと思いますよ。私が運動やるもっと前、政治の場の上までは地道に運動やっていた吉田清治とか熊本の青柳敦子という女が始めたり、地道に草の根的に延々とやってきたんですよ。そういうのが功を奏して国会の場で取り上げられるまでになったし。社会党のなんか女の国会議員でしたっけ、国会の場でも出るようになった確証があると、運動やってこれだけのベースメントがあるということでもって国会でも取り上げて。そこでもって河野談話で伝えるようなもの持ってきたのであって、長い道のりを彼らは地道にやってきたんでしょう。

(アジア女性基金にも) 反対しましてね。要は政府主導できないから民間でアジア女性基金だとかそういうのが場当たりのもの作ったけど、それはただ我々が言ったのは政府がやっちゃいかんというのは、それはクリアできたわけであって。そういう反対の声があったからこそ、アジア女性基金という曖昧模糊のものが片付けたと。我々が声上げた成果が1つあったのかなという気はしますけど。その前は河野談話ですね、平成5年の。河野談話でもって従軍慰安婦の強制連行はありましたという、不確かな証拠でもって突っ走っていったと。それを言

うなといったんだけど言うわけであって、それ以前から言っていましたね。河野洋平なんかが出す前から。要は慰安婦があったという人が声を上げていたんで、これは違うぞと我々がいわざるを得なかったわけですから。当時は一水会にいたくらいの頃から、平成5年ですからね、河野洋平談話は。そういう新右翼、民族派の団体でも声は上げてましてね。

それは嘘っぱちなんだということはいわざるを得ないわけであって。従軍慰安婦強制連行というものは、嘘だよと。それやっただことに対して起爆剤になったのは、日大の秦郁彦教授が済州島まで行って検証して、吉田清治があれを引っ込めたというのは非常に画期的なわけなんですけども。ただその時には時すでに遅しというか。だから今現在やるべきことは、河野洋平談話というのが、嘘っぱちだとわかった以上は引っ込めろというようなことを——原理原則的なものですけど——言うのは当然だと思いますよね。

(具体的には) 昔のことはあんまり覚えがないんですね。主張として街宣などでは言っていましたね。街宣とか竹島の問題も含めて対韓国、南朝鮮の問題に対しては街宣なりで訴えていたと。あとは何か当時一水会の機関誌でも書いたことあったかな、そんなことですかね。ただ我々は、どんなことやってましたかといっても、実際は街宣やるか勉強会か機関誌かくらいしかやることないわけですから。じゃあ国会で質問したかって、それはないわけですからね。我々がやっている運動なんて小さなものですよ。政治家がいるわけでもないし、政治家につてがあるわけでもないし。そういうことをやることによって、そういうような声を人々に浸透させていって、いつか我々が政権をとるといような大舞台に登場した時に、そういう人たちの支持を得るといふための土台作りの段階でありますからね。

竹島の問題やっただのは、それは向こう側の方から竹島に対して——たとえばこれでもって、埠頭を建設しているとか、要塞を作ったとかなんかあって、そういう報道があってこれはいかんというきっかけがあって、竹島の問題・・・前、竹島のデモをやった最初の頃は——平成6年7年くらいだったかな——韓国大使館の前までデモをやったりとかですね。その頃はまだできたんです。麻布の大使館前のデモ行進して、今はシャットアウトでもって前まで行けないんですけども。前はアメリカ大使館の前だったら十分行けて、あそこで街宣して街頭演説なんかできたけど、今はずっと遙か先の

坂の下の 200m ほど離れた JT の本社前まで、官憲によって無理やり引きずりだされてやらされていますけど。昔は政治活動は割と自由にできたものなんですよね。今は非常に厳しいですね。

当時は竹島の問題はそれほど顕著じゃなかったことと、韓国政府自体が従軍慰安婦に対する補償とかなんとかいうことを、あまり言ってなかったから（右翼は抗議しなかったん）じゃないかと思うんですよね。あと 1 つにはインターネット上での書き込みによると、右翼には朝鮮人が多いから朝鮮にはいかないんだとか、そういうことを言っているのがいますけどもね。確かに日本には在日韓国人朝鮮人というのが非常に多くいて、こういう人たちが多くは——ほとんど暴力団の多くは、暴力団というかヤクザというか任侠というか、そういう人たちは韓国・朝鮮人が多くて。なおかつやくざ系の組織が別働隊として政治団体を作っているということになると、日本の政治団体、任侠系の特に真っ黒い街宣車であるとか、強面な人たちが朝鮮人が多いんだよ、ということはいく言われますよね。

朝鮮は反共だから。共産主義打倒の意味から言っているのであって。まあ、韓国に対しては昔から反共では同じなんだからという意味があって、非常に南に対しては寛容な人が多いですね。反共一辺倒、反共がとにかく第一なわけですから。ちょっと我々と考えが違うと思いますが。反共なら何でもいいということでしょうから。

北に対しては拉致問題ですかね。我々が拉致問題を始めたわけですけども、平成 9 年に西村眞悟衆議院議員が国会でもって横田めぐみさんについて質問して、そこから拉致というものが明るみに出てきて。平成 9 年に拉致被害者家族会が結成されて、救う会作って、それでもってそのころから街頭で署名活動とか延々とやってきたわけなんです。北朝鮮がどういう国かというのが段々人々にわかってきたし、私自身も勉強してわかってきたし。人にそれは伝えていく必要があると感じたわけなんですけどもね。

拉致問題が平成 9 年からですから、あの当時は全然人々見向きもしないし、特に NHK や朝日新聞なんかこれだけ取り上げてくれといっても、意識的にわざと無視してきたわけなんです。だからもうあの横田さんなんかと一緒にあって、署名簿を持って街の人をお願いします、お願いしますという、「拉致なん

てねえよ」とか「連れて行かれる方が悪いんだよ」と汚い言葉を吐きかけ（られ）ながら、それでも画板もって署名を集めていたわけですけど。10 年前の 9.17、小泉訪朝でがらっと変わりましたね。あれ以降ですよ、国会議員が拉致問題言い出すのは、ブルーリボンの立派なバッチつけてやっていますけど。当時は街頭でもってリボン、青いリボンをぐるぐる巻いて買って来てそれ持ってハサミで切って端っこ折り曲げて安全ピンつけて、どうかこれ付けてくださいと人々にお願いした時代があったわけですけど。今の人たちは、そういう時代は知らん顔でいた人たちが、今偉そうに拉致問題というのが、自民党であれ民主党であれ国会議員はいっぱいいるということなんです。

今、救う会の運動には関わってないですからね、全然。小泉訪朝以降、ちょっと意見が違ったものですから、あまり私が行っても歓迎されないようですよ。5 人の人が帰ってきて、その後の運動の方針・進め方として、彼らは政府側とべったりくっついてきたんで、政府と一体化していますんで、ちょっと私は考え方が違うなという感じがしますけどね。

それ以前は総連に対して抗議したりとか、ハンドマイクでもって街宣したりとか、そういうことは、やってみましたけどね。ただそこも前までなかなか行けないですね。抗議文を持って行ったって抗議文を受け取るわけでもないし。まあ人々にこうやって訴える必要があるんですし、直接行かなくても…他の立場でもって訴えるとかですね。

5. 排外主義運動

外国人に関わる運動って、特に私はやってないと思いますね。外国人排斥ではないですけどもね。外国人に対して運動やったかな？ちょっと覚えがないですね。ただ外国人、在日の問題にかかわらず、外国人どうせよというようなのは、永住許可の問題とかあとは入管法の問題から、その点は法務省とかに要請はしていますけどね、それは。まあ広い意味でいえば、たとえば台湾人の外国人登録証の国名が台湾なのに中国なのはおかしいとか、それも外国人問題の一環ではありますんでね。台湾正名運動、これは 10 年位前からやっていますんでね。台湾関係の人たちと一緒にやってきましたけど。

瀬戸（弘幸）さんとは国家社会主義労働者党かなんかの、外国人排斥ということでやって、それは朝鮮

人、在日朝鮮人とは違った人だね。ただその頃は日本は欧米のように外国人労働者どうこうという、そこまで大きく社会問題化してなかった時代ですね。私——どうかな、彼に（ついて）思うのはネオナチに対する憧憬、憧れがあってそれをただ無理やり日本に持ち込んできたのかなと。外国人排斥を主張することによって票が集まるといふか、支持を得られるといふか、いびつな民族主義的なものを、向こうを見ていて憧れの的なものでやってるんじゃないかなという気はしますけどね。日本に根付いてなかったんじゃないかな。

（外国人排斥運動とは）関わりはなかった。ただ運動の接点としては、国家社会主義労働者党の人たちもデモなんかのときは一緒にやったりとかですね。ただ外国人問題じゃない。あの人たちが外国人問題をテーマにしていただけであって。当時たとえばイラク、湾岸危機のころだったか、アメリカのグローバリズム、New world order に対しての抵抗という形でもってイラク支持のデモやったら、彼らも来てくれたりとかね、そういう程度のものでしたね。だからある意味で反米的な主張を彼らは持っているでしょうね。アメリカは無造作に外国人を受け入れるような状況はあるけど、日本は違うんだよということですから。

（外国人排斥をするのは）日本的なシステム破壊であるとかですね、外国人の狼藉といふかそういう点に目が行くわけなんですけどもね。あくまでも外国人に対して非常に寛容な人、みんな地球市民だ、グローバルだ、国境なんかないから誰とも仲良くしよう。で、外国人がちょっと日本人的な社会にそぐわない、さっき言った電車の中でギター弾いて金もらって集めると、そういうことに対しても非常に寛容であると。まあまあいいじゃないのといふ人というのは、人に寛容であるといふことは自分も寛容な扱いしてくれといふわけですね。自分達が外国にいて、外国人に鬻ぎ買うようなことを外国で日本人なら平気でやっても、どうせ私達は外国人なんだからこれは許してくれるだろうという思いが同時にあって、実際にそのことが鬻ぎ買っているわけですね。そういうことは知らなきゃいけないわけであって。自分達がやっている行いが外国で良くない……テレビ局なんか取材でもって日本のお笑い芸人が裸で外国人から鬻ぎ買ったと。日本ならそれは許さ

れる行為なんだろうけど、外国に行ったら違いますよといふことは、日本からしたら外国人にも同じ事言わなきゃいけないわけでありまして。そういう意味で文化は受け入れるけれども、システムの破壊は許しませんよといふことにつながるんですよ。

ハロウィンパーティー粉砕といふのは、一昨年10月30日やったわけですね。あからさまにインターネットで予告して、9時何分発の山手線の内回り新宿駅から何両目に、でパーティーやろうと。あくまでこれは犯罪の予告でありますから、それに対して誰も手をこまねいて何もやらないんだったら、きちんと対処するのは当然のことでありまして。これは主にアメリカ、白人社会に対する警告でありますけどもね。

（それ以外の行動は）特にないですよ。外国人に対する。池袋の北口にあそこの、シナ人の商店が24時間365日営業でもって、ずっとあそこに商品、冷蔵庫やなんか陳列させているのを撤去させるとかね。動画なんかで映ってますが、それ以前から言ってたんですが、あれはおかしいと。地元で警察なんかにも言っていたことがあって、言っても全然聞かなかったんですね。あれは陽光城という商店なんですけど、全然言うこと聞かないのが我々が行ったことによって、警察にはトラブル回避のために土下座したんでしょうけど。365日24時間営業だから、冷蔵庫どけたら下からいろんなガラクタが出てきたんですけど、いかにずっと占拠してたかがわかったんですけど。まあ日本人は非常に大人しいから、何も言わずにずっと済ませてきたんでしょうけど。それじゃあいけませんよといふことを、我々は主張して訴えているわけであって。私なんか別に外国人排斥でもなんでもないです、それは。本当に親日的な人は、日本が好きなのは日本に来てください、ただ嫌いなのにわざわざ来ることないわけであって。

だから私なんかイラク湾岸危機以降——ずっとイラクから平成2年、1990年にクウェイトに対して侵攻して以降、経済制裁かけて孤立させてたわけだけ——その中でもって私が何でイラクに行ったり来たり自由にできるといふのは、イラク政府としては私は入国させればイラクのためになると思うから私にビザを発給して、わざわざ招待状も来て行けるわけであってね。それを日本から行っておいて、「イラクは人権侵害国家でもってフセイン政権だめなんだ」といふのなら入れないわけであって。日本に持ち帰ったことを実際のイ

ラクの状況、フセイン政権でやっていること、イラクの人々の窮状を日本に持ち帰って、声は小さいかもしれないけど広めていると、あの国にとっては友好であると。少なくとも、不利益をもたらす人間ではないと見られているわけなんであって。まあ、人が外国に行くということは、それだけ重きを持ったことでありますから。誰でも彼でも外国に行けるわけではありませんし、誰でも彼でも受け入れるわけではない。特に戦時下にあったわけですし当然。それは平時にあっても日本においても、外国人を受け入れるというのはそういうネックがあるというのは、日本人はほとんど知りませんよね。パスポートさえ持っていればどこでもいけるんだと思ってるようですけど。

そういう点において、従軍慰安婦のおばちゃんとかよばれる人たちがやってきて、日本政府は強制連行したんだということを訴えるために来ているというのは、観光ビザで来ておかしいだろうと言わざるをえないですね。

だからイラク戦争が終わった後に、イラクの友人が日本に来ることになって、私が招聘して。ちょうどイラクで人質になった高遠菜穂子とかあの子たちと向こうで活動を——考え方は違うけど活動を一緒にやったりしたものだから。向こうで世話した現地のイラク人を日本によんできて、中野ゼロホールでシンポジウムやることになったんで、その時はビザを私がとったわけなんだけど。あくまでもその人をうちの中古車の買い付けとかいうか、商業的なのに来るんだということと呼んだわけなんで。彼らにも言ったんで、そういう状況で来ているから、あからさまに日本政府を批判するような発言はその場では出さないでくれと言ったわけですけども。逐一外国人が日本に来るといのは、そういう重きがあるんだということをおね、日本の人たちは——ほとんどの人はまったく意識してないと思うんです。

6. 外国人参政権について

参政権の問題というのは、要は行動したのは、いわゆる保守の人たちが出てきてやっているときに、それに乗っかる形でもって参政権は反対だと。せいぜい5、6年前じゃないですかね。そういう人たちが出てきたということ自体が、外国人が参政権をよこせというのが出てきたのでそれに対抗して在特会

みたいな団体が出てきたのであってね。それがきっかけで、彼らは反対運動のきっかけを、戦う場を作り出してきたのは功績としてあると思います。やり方とか主張の仕方は別にしてですね。

その頃（90年代）は新聞報道等をみると外国人参政権、これを認めるなんてけしからんという思いがあった。それがまあ最高裁判決があったりとか、民主公明合意があったにしても、まだそれが現実的なものになるとは思えなかった。そういう主張をする人がいるにしても、それが日本の政府の内部においてそれがどんどん上に上がってきて、現実のものになるとかいう感じではなかったですけど。この数年の間にそういう流れができてきたのは、非常に脅威的なものがありますのでね。（それまでは）他にもやることありましたんでね。だから、彼らが運動を盛り上げてくれたんで、それ一緒にやる、その問題をテーマとして戦う場ができたということでしょう。外国人参政権に反対する運動に関してはですね。

外国人参政権に反対するデモ行進や何かは、彼らに関わってからそういうことをやりだしたわけであって、それまではそれほど危機感はなかったわけですからね。そういう人たちの中で、ネットで情報を拡散してきたんで、今度こういう集会あるよと。デモ行進があるよと。そういうことでもって誘い合っていくようになったということですかね。

それは日本の国体護持、日本の維新・革新運動という柱の中において枝葉がある、その中でもって1つして、これも重要な1つですよ。領土問題やっていると憲法の問題があったりとか、拉致の問題があったりとかいうのの中に外国人問題がある。1つの問題としてそればかりに特化する必要はないけど、これもやっているとやってもやっているとやっていかないと。彼らの場合、在特会というのは外国人の在日特権を許さない、それが一本の幹であるのであって、我々のような国体護持とか維新・革新いうのと全然違って、外国人の特権を許さないと彼らはそれだけやってればいいけど。私はいろいろあるなかでもって枝葉の1つとして外国人の参政権の問題としても注目に値すると考えたわけですよ。

やはり日本という国柄のなかでもって、外国人がどんどん無造作に入ってくると。日本の我々が営々と築いてきた日本的なシステムというのが破壊されていくということに対しては、日本人として危機感持たねば

ならないのであって。システムがいったん破壊されるのはいいんだ、と考える人も恐らくいると思うんですね。昔、山手線の中で普通に乗ってきたらば、白人、外国人がギターじゃんじゃん鳴らして歌を歌いだして、歌を歌ってもう1人が帽子持って皆さんからお金をもらっていたというのは、「ふざけるな」とつまみ出したんだけど、彼らにしてはこれが当たり前になっているわけだし、許容してしかるべきだとなっている。日本人としてこれは許さないと。システムとして電車の中で静かに本を読んだりとか、まあ転寝してもいいんだろうけど、日本的な文化侵略という大層な問題だけど、要はシステムの破壊を許すなということであって。外国人は自分達の文化持ち込んだりとか自分達の言語を使ったりとか、それはいいわけなんですけど、ただシステムの破壊は許しませんよという立場なんです。自分達が日本で自分達の国の料理を作って郷土料理のレストランやったり、それは別に構わないわけなんですけど、それをスタンダードにしてじゃあ学校で日本の給食で日本の給食は朝鮮料理で統一しましょうとかそれでは困っちゃうわけであって。それは参政権の問題もわかりなんですけどね。

だから参政権の問題とは、国を司どる——国というものを行政を遂行するというのは、日本人に与えられた使命であると、義務であると。義務というのは辛いものがあって、自分達の国をどうにかせねばならんと、財政破綻しちゃいかんし、教育の問題も子ども達に未来ある日本ということをしなないといけないんだけど。ある意味その辛い義務を——参政権を与えるのは自分達の義務をあんたたちやっちゃおうだと放棄するのと同じなんです。押し付けてると。外国人の押し付ければ楽なんですけど、あくまでも自分達が日本という家の主人なんだから、ゴミがたまっているからといってお客さんにゴミ掃除しろと言わないのと同じであって、あくまで自分達できれいにしてお客さんとして招き入れるというのが本来の本筋だろうと。彼らの権利どうこう以前に日本人の義務として参政権を行使せよ、ということでありませう。原理原則に則って、道義的な問題からしてもですね。人数が沢山いるから乗っ取られちゃうとかそういう問題とは別の次元で語っていかんといけないと思うんですね。

(他の団体は) 外国人にそんなものを与えるのはけ

しからんというかな、割とまあ感情論的なものがあるんじゃないんですか。中にはその問題、そういう団体であるとかそういうテーマに限らず、割と保守系のネット系の運動ってのが鬱憤の捌け口というかね、不満の捌け口として成立しているような部分も多分にあるわけでしょうから。本当、筋の通ったきちんとした運動体ではない。ただ単に外国人の特権をとというのが一本の柱でもって。右翼・民族派とか保守とかそういうのと違うというのは、根底に守るべきものがないと。国体護持であるとか尊皇であるとかそういった精神がないままに、竹島は韓国領土ですという人間を日本に呼び入れてテレビコマーシャルに使っているのはけしからんじゃないかというアンチですね。そういう運動が根底にあるのであって、その先にどういふ日本じゃなきゃいかんからこういうものだというわけではないんですね、彼らの場合は。

問題のある国の人間が参政権を言っているからであって、問題のない国の人間が参政権を言う分には構わないということですね、それは。ある意味、独島は韓国領土だという人間が日本に来て、活動するということになると、また従軍慰安婦は強制的に連行されたんですよと、日本は賠償せよという国の人間がわざわざ日本にやってきて活動するとなると。それは確かに国家主権の問題として、あくまでも日本に限らずどこの国でもエントリーさせるということは、その国に対して利益をもたらすかその国に少なくとも不利益にならないことを条件にその国に入れるわけだけでも。日本に来て破壊活動とはいわれないが、反日本的な事実でないことを言う。独島は韓国領土であるとか、そういう人はお引取り願いたいと。

ただ別に純然たる日本が好きなんだ、日本で勉強したいという場合には構わないんですね。その点が運動やっている人たちって混同している部分があって、それとプラス彼らは——在日朝鮮人というはずといつているわけであって、親のまたその親の代から日本にいてるわけで、動きようがないのではあって。日本が嫌いなら日本から出ていけばいいんだけど、彼らとしては悲しいかな出て行くところがないと。生活の基盤がこっちにあって、向こうには家屋敷もなければ行っても言葉もわからないという、非常に辛いところがあるわけなんです。それをただ原理原則からいえば、確かに出て行くべきなんです。嫌だったらば。ただそれができないから嫌な国でも住まざるを得ない

ということに対してはね、非常に重く受け止めざるをえないと思うんですけどね。

（在日コリアンは）普通に日本でもって普通に暮らしている分には構わないわけでしょうけど、ただその中で独島は韓国領土ですよとか、我々は税金払っているのだから参政権よこせとか言われちゃうから困るのであって。あくまで彼らは外国人でいるということは——今では非常に帰化制度が簡略化されているのであって、犯罪歴とかなければ割と簡単に日本国籍取れるんだけれども、あくまで軸足は韓国朝鮮のほうを向いておいて、なおかつ権利としての日本の選挙権だけよこせと、また税金払っているのだから当然だと言われちゃうと、それは困るわけでありまして。あくまで彼らの外国人としての朝鮮なりシナ人のパスポート持っていることに誇りをもって、自分の国の国籍を維持しているわけですからね。

そういう意味じゃ、一昔前に選挙権がほしければ日本国籍とればいいじゃないかと言われた。確かにその通り。それ言っちゃうと今ならネット系の右翼の人たちは、その論は言わないほうがいいと。選挙権ほしけりゃ日本国籍取れというのと彼らは取っちゃいますよ、今簡単にとれるんだからと。国籍だけとっておいて向こうのほうを向いているから言わないでくれ、という人もいるみたいですけどね。日本国籍を取っちゃうということは、日本政府が認めちゃえば同じ日本人なわけなんですから。その中でもって反日活動やろうが何しようが致し方あるまい。別に朝鮮人シナ人にかかわらず、アメリカ人であれヨーロッパ人であれ、どこでも同じことなんですけどね。

7. 在特会について

現在のいわゆる保守運動ですかね、ネット系の右翼ができたのは自分が安全な位置にいたいと。決して批判はされないと。でも人は批判する、人の罵詈雑言悪口はいいたい放題というのがネット社会から始まったいびつな形の保守というんですかね。ネット右翼というんでしょうけど、まあそういうものは言論ではないですからね。認める必要ないし、取り上げる必要もないと私は思っているんですよ。

民族派は北方領土返還とかでデモ行進やれば、千人二人集めてやったこともありますしね（だから在特会が特別動員力があるとはいえない）。ただ世の

中メディアなんかは、まったく見向きもしなかっただけの話でありまして。在特会とかそういうところがやっているとというのは、まあ一般市民というかね、団体に入っていない人たちが集まるようになってきたということで、それだけやっぱり皆プラスチックを持っていて、今までの右翼団体の集会には行きづらいけどあいうところだったら簡単に垣根が低いから行けるじゃないのということで、と思うんですけどね。

まあそれなりの人たちが来ているんでしょう。その程度の人たち。要は鬱憤晴らし、不満の捌け口として非常に重宝して来てんじゃないの？という感じはしますよね。その人の信念というか理念というか、どこまで持ってるかという。前に外国人参政権で左翼がデモやったときに、我々も彼らも一緒に行って、銀座の公共施設でやっているからと行った。抗議行ったら官憲がずらっと阻止線張っていると。我々普段5人10人でやったって警官に押し戻されちゃうわけだけど、彼らの動員力は100人位人が来ていると。100人位で突破すれば、警官がいても押ししていけば阻止線突破できるんで、我々が先頭に立ってさーっと警官と押し合いへし合いやっという、「さあ来てくれ」と言ったら、向こうは警察によって設置されたカラコンのポールの柵の中に入って、警察がここにはいさないよと言ったところに大人しくいるんであって、実際ここまでは来てくれないわけですよ。「何で来てくれないんだよ」と言ったら、「みんなそこまでやったら引いちゃいますよ、だめですよ」。

檻の中に入れられた羊であって、その中でもって「朝鮮人叩き出せ」「東京湾に叩き込め」と言うことは過激なんだけど、実際戦力としては役に立たないというのは、そういう人たちでもってそういうことを目的にできてないわけなんだから。それはもう、そういうことは現実として、そうした人だと認識はしてなきゃいけないわけですね。下手にそのこと認識してないと、あれが悪いこれが悪いと、誰かみたいにあの人たちを一生懸命批判罵倒することになって。私からすれば、批判とか罵倒する相手でもないと思っているわけで。そういう人たちにはあまり期待しちゃいけない。利用できるというか、彼らも私どもを利用すればいいのであって、お互い相互的に補完してやって、自分達の運動にプラスになる面は一緒にみていけばいいけど、マイナスになる部分は関知しなければいいわけですから。それは大人の関係でいけばいいんじゃないの、と思う

わけですよ。運動体においてはすべてにおいてですね、みんなそれぞれ違うんですから。ただそれはコネクションというものがあって、ずっとそれを維持していけばいつかそれが立つべきときには、一緒に大同団結してできる部分もあるはずなんだからと。それは温存しとけばいいわけなんでありまして。

(近年排外主義運動が出てきたのは) 彼らの中心になる人物が出てきたからではないですかね。何か思ったかそれにやりだして、その時期がちょうどインターネットが普及してきた時期、彼らがインターネットに長けていたというか、インターネットをうまく駆使できるようなスタッフが周りにいたというか、そういうタイミングが一緒になったんで。何か機会があればやろうと思っていたんでしょ。やっぱりネットですよ、強みというのは。

ただネットというツールとして使えば非常に便利なんだけど、彼らの場合はインターネットがすべてになっちゃっていると。インターネットに使われているというか、インターネット中心に物事考えているというか。インターネットに映ることが主目的になっちゃっているというかな。特にニコニコ動画というかな、あれだと常に自分からやっていることがぱっと全国、全世界に映るということは、ちょっとスターになっているという気分があるんじゃないかと思うんですね。今までマスコミでテレビで散々無視されてきたけれども、それに代わるものとしてテレビの中継ほどではないけれども、似たようなツールを得たということでもって。どこか集会の後に飲み会に行った、飲み会の場面まで一所懸命生中継でさらしたりして、要は傍から見れば醜悪なだけで愚かなだけなんだけど、自分達は感覚からいうとすごいと。自分達の主義主張、そういうものが世間に対して受け入れてもらったという錯覚を覚えてしまうんですかね。それは非常に恐いことなんですけども。

元々インターネット右翼というのは、インターネット、2ちゃんねるの掲示板なんかで書いていくと。今までは一般のマスメディアというのは、左翼にあらざるば人にあらざるみたいな、左翼的な言論は文化人取り上げているけど、右的なことは取り上げてくれなかった。ちょっと書き込んでいくと、結構みんな保守的なんだなとか、外国人参政権、結構みんな反対しているじゃん、そういう意見結構多いんじゃないかと書き込んでいったけれども。それが今度オフ

会という形で出てきたらば、みんな一緒に考えていて、ハンドルネームの名刺作って、彼らの名刺の特徴というのは住所は書いていない。本名もない。ハンドルネームと携帯電話の番号とメールアドレス、もしくはホームページの URL 書いている程度でもって、お互いにハンドルネームで呼び合っている。非常に気持ち悪い世界なんだけど、そういう人がどんどん集ってきて、反フジテレビのデモだとか発展してただけですけど、それが果たして発展していったと言えるのかどうか。情報化社会のなかでもって、私はむしろ責任ある言論というのが衰退しているのではと思うんですね。インターネットの普及でもって言論の枠が、言論と呼べないような発言の枠が広がっていったんだけど、逆に我々の訴えるような政策をもった声というのは、マスメディアに対しては届きづらくなった。国家権力も、そういうものを必死になって封じ込めようとむしろしている。だから韓国、南朝鮮の大使館にいても抗議もさせないとかね。それも1つの——端ではありますけども、我々の声が正当な言論として届く、国民に対して主張すべき輪がどんどん狭まっているということでもって、言論の不自由さを感じますよ。インターネットの普及でもって言論の枠が広がったといわれる反面ですね。正当なる言論と鬱憤晴らしの不満というものがごっちゃになっちゃっている面がありますんでね。

8. 結語に代えて

θ氏にとっての「外国人問題」は、彼のいう「システムの破壊」に関わる限りで重視すべきものということになるだろう。排外主義運動が台頭した際、マスメディアに右翼活動家がしばしば登場し、「弱いものいじめ」や「差別」を批判するコメントが掲載されてきた。排外主義運動(より端的には在日特権を許さない市民の会)は、思想がなく右翼とは呼び得ない単なる鬱憤晴らしだ、という言説を一方で支えたのは右翼だったといえる²。

² その意味で、「しんどそうな人々」の鬱憤晴らしとして排外主義運動を描く安田(2012)の議論と、排外主義運動の切り捨てをはかる右翼の利害は一致する。それゆえ、一水会顧問の鈴木邦男や会長の木村一浩は安田の議論を引いて「鬱憤晴らし」と規定し、安田はその言葉を借りて排外主義運動を批判するという共犯関係ができあがっている。

だが、右翼は排外主義を批判するような立場にあるどころか、排外主義と非常に親和的である側面はなぜか議論されない。θ氏がいう「国体護持」や「国家革新」とは、きわめて排他的な民族主義以外の何ものでもなく、状況次第で簡単に排外主義に転化するものだろう。鈴木邦男は、自殺した元代議士の在日コリアンである新井将敬を、日本人以上に日本人たろうとしていたと賞賛するが、それを賞賛すること自体が排外主義に他ならないことをまず指摘すべきだろう。

θ氏は、排外主義運動に参加していることを新右翼陣営で批判されているという。だが、「システムの破壊」を問題視するのは他の新右翼も同様であり、具体的な事象の解釈で相違が生まれているにすぎない。すなわち、θ氏と彼を批判する者の違いは、現時点での「外国人問題」は「国体護持」に対して害をなすかと考えるか否かでしかなく、「国体護持」という思考の排外性は埒外におかれる。θ氏の「功績」は、「国体護持」に必要な「システムの破壊」を問題視することが排外主義に逢着することを示した点にある。右翼にコメントを求めるのならば、まずこの点から始めて再帰性を伴ったものにするべきだろう。

文献

- 樋口直人, 2012a, 「在特会の論理(1)~(7)」『徳島大学社会科学研究所』25号.
- , 2012b, 「在特会の論理(8)~(9)」『徳島大学地域科学研究』1号.
- , 2012c, 「『行動する保守』の論理(1)~(3)」『徳島大学地域科学研究』1号.
- , 2012d, 「在特会の論理(10)」『大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター年報』8号.
- , 2012e, 「行動する保守の論理(4)」『茨城大学地域総合研究所年報』45号.
- , 2012f, 「排外主義運動のマイクロ動員過程——なぜ在特会は動員に成功したのか」『アジア太平洋レビュー』9号.
- , 2012g, 「在特会の論理(11)~(14)」『徳島大学地域科学研究』2号.
- , 2012h, 「『行動する保守』の論理(5)~(6)」『徳島大学地域科学研究』2号.

———, 2012i, 「在特会の論理(15)~(18)」『徳島大学社会科学研究所』26号.

———, 2012j, 「排外主義運動のマイクロ動員過程——なぜ在特会は動員に成功したのか」『アジア太平洋レビュー』9号.

———, 2013a, 「『行動する保守』の論理(7)」『アジア太平洋研究センター年報』9号.

———, 2013b, 「『行動する保守』の論理(8)」『茨城大学地域総合研究所年報』46号.

———, 2014, 『日本型排外主義』名古屋大学出版会.

(付記) 科学研究費補助金によるプロジェクトの一部として本稿のもととなる調査はなされており、稲葉奈々子、申琪榮、成元哲、高木竜輔、原田峻、松谷満の各氏との共同研究によっている。記して感謝したい。